

インターバンクの声（2016年9月13日）

米連邦準備制度理事会（FRB）高官の講演内容を事前に知っていたわけではないだろうが、102 円台中盤前後で耐えていた円相場は、東京時間の夕方からにわかに円買い・ドル売りに動き始めてしまった。欧州市場で株安が進んでいたことも円買いを促し、ニューヨーク市場の早い時間にアトランタ連銀のロックハート総裁、ミネアポリス連銀のカシュカリ総裁が相次いで利上げに対し「切迫性がない」ことや「急ぐ必要はない」との考えを表明したことが伝わると、101 円 70 銭台まで円買いが進んだ。その後、数時間は 102 円前後に戻す場面もあったが、ブレイナード FRB 理事が「利上げには慎重さが必要」、「早期の政策引き締めの説得力がない」とまで語ったことが円買い・ドル売りへのダメ押しとなった。タカ派的な高官発言が相次いだ後、昨日は 3 人ともハト派的発言をしたことには、いささか連邦公開市場委員会（FOMC）前の FRB の意図的な演出があったのではとも疑いたくなるが、これで9月の利上げの可能性が再び大幅後退してしまった。それでも週後半には小売売上や消費者物価指数などの発表もあり、僅かながら物価上昇の確認によってブレイナード理事発言の根拠が崩される可能性も残っている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。